

資料KN-04

①

## 西田哲学 意志作用

### 【参考文献】

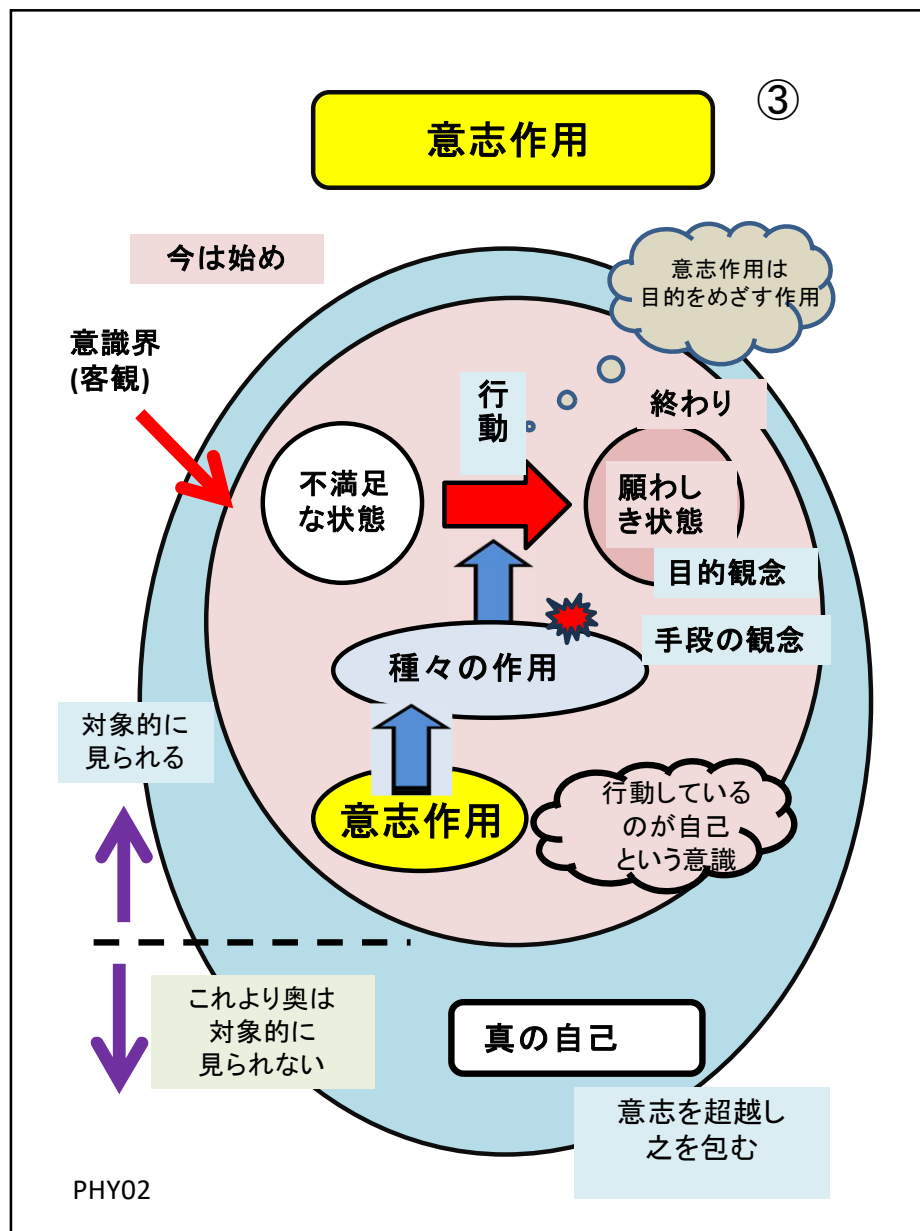
- 『うつ・不安障害を治すマインドフルネス』佼成出版社（ここでは、基本著書Aという）
- 『「死」と向き合うためのマインドフルネス実践』佼成出版社（ここでは、基本著書Bという）
- 『意志作用』(テキストPHY-02)(ここではテキストPHY02という)
- 『深いマインドフルネスのための西田哲学入門』(SIMT叢書02)(ここでは叢書02という)

著者：大田健次郎©

PP図西田哲学

## 西田哲学の ② 意識作用の考察

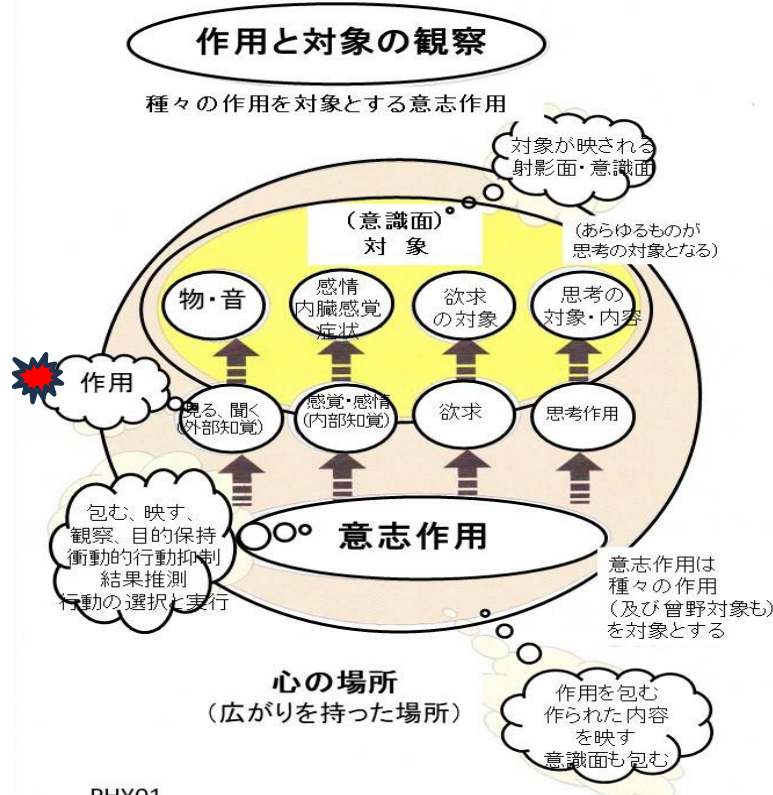
- 西田哲学の人間哲学には、認識論・実践論・実在論がある
- 実践に該当するのが、意識作用の考察
- 意識には、種々のものがあり、同列ではなくて、階層がある
- 大乘仏教でも作用の観察がある
- 日本の禅では、詳細な観察を指導しない
- 日本の禅は、ただ坐禅するという瞑想と同じ程度のものか、悟りを目指し公案で指導するものが目立つ



- ④
- ## 目的をめざす意志作用
- ある目的を自覚
  - 目的を達成すると消滅
  - 目的の自覚＝終りに現れるものを、まず初めに想起
  - 合目的的作用
  - =目的に合うような意識作用
  - 前と後と過程の内容を包む作用
  - すると、我々の意志のさらに奥(意志を超越して)から、これを包むものが「自己」
- ☀ 意志作用の時にも本音が働く


## ⑤ 種々の作用を対象とする意志作用

(図1-1)



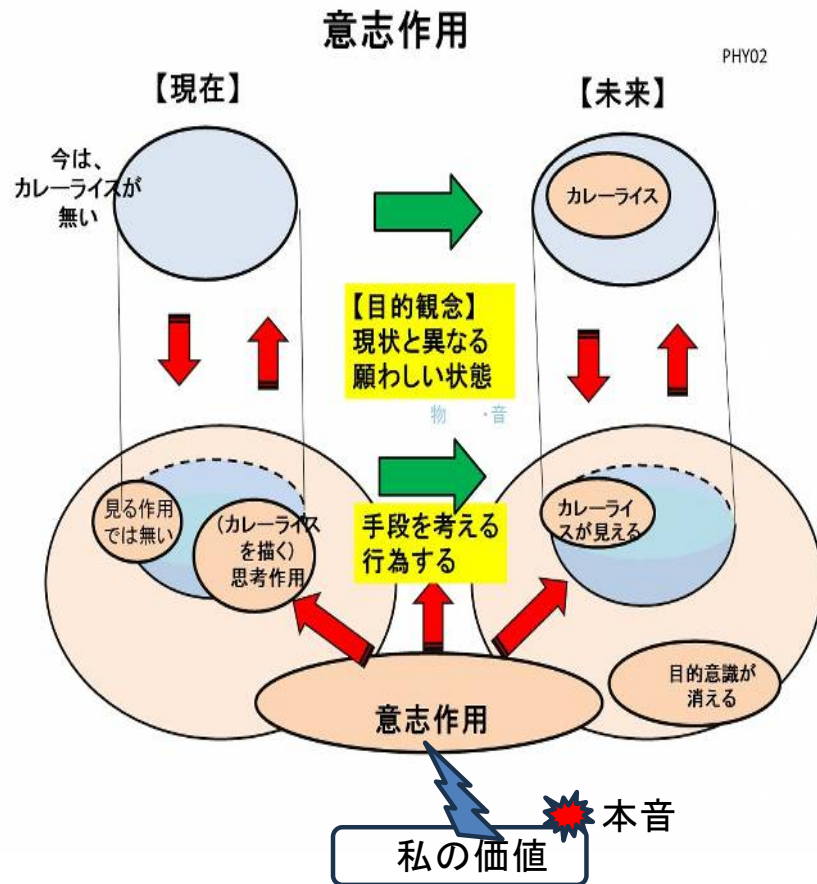
## ⑥ すべての作用を 対象とする意志作用

- 意志作用は「目的」の自覚より、起こり、その目的を達成すると消滅する。
- 意志作用は、見て、手段を考えて、行為する、というすべてを含む。
- 意志作用は、視聴覚などの感覚、目的、過去の経験の想起、現在の目的達成のための手段を考える、そして行為する、行為しつつ目的達成に近づきつつあるか評価したり修正したり、というように、多くのものを「対象」とする。

 作用とともに本音が働く

⑦

## 現状と異なる状況を作る＝目的



⑧

## 意志作用

- 現状に無いと意識
- 願わしい状態(目的)を思いうかべる
- 手段を種々思う
- その手段で実現可能と信じる
- 決意
- 動作・行動
- 主観的意志内容から客観的事実に転じる
- 目的が意志作用の中にある
- 意志作用には本音が働く
- 詳細 → 資料KN-05「本音＝独断・偏見・我執」
- 常に本音が働く

## 自己の選択した「価値」 それを実現する短期の目的

- ⑦の図の最下部に「私の価値」がある
- 意志作用で行動する目的は短時間（30分、2時間など）に達成して消える
- 次々と短時間の「目的」を設定しては行動していく
- その時に、自分の選択した人生「価値」（1年、10年、50年持ち続ける長期的）を維持する枠内で、無数の「目的」を設定、実行していく、
- これが、幸福な人生
- （「価値」についての詳細は別に学習する）